相談窓口のご紹介

患者支援センター窓口へお越しください　月～金 9:00～16:00

がん相談支援センター

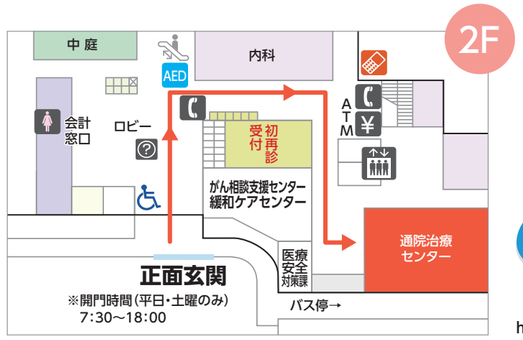
患者さん・ご家族ががん治療を受ける上での気がかりや不安などについて相談できます。また、がんに関する情報をわかりやすく解説したり、一緒に困りごとの整理を行います。

患者支援センター

ソーシャルワーカーが経済的な問題や医療制度、就労などのサポートを行います。

緩和ケアセンター

身体や心のつらさなど、相談内容に応じて、医師・公認心理師・栄養士などをはじめとする院内の専門職種が連携してサポートを行います。



近畿大学病院 Kindai University Hospital Cancer Center
がんセンター（通院治療センター）
Tel.072-366-0221
https://www.med.kindai.ac.jp/gancenter/

緊急時の連絡先

以下の症状がある時はご連絡ください。

- 38度以上の熱が出た時
  （抗生剤が処方されている場合は内服してください）
- 吐き気が強く、24時間以上食事や水分が摂れない時
- 点滴した部位の異常や痛みがある時
- その他、対応に困った時

Tel.072-366-0221

平日　9：00 ～ 17：00
› 受診している外来受付

土曜・日曜・祝日・診療時間外
› 診療科の当直医

診察券をご準備のうえ、お名前・診療科・主治医氏名・通院治療センターで治療中であること、今の症状をお伝えください。

Outpatient Chemotherapy Center.

通院治療センターのご案内

通院治療センターでは患者さんに安全で快適に
治療を受けて頂けるよう努めております。

近畿大学病院
KINDAI UNIVERSITY HOSPITAL
通院治療センター

通院治療センター利用の流れ　01

ご自宅

体重測定

診察日はご自宅で体重測定を行い、診察時に医師にお伝えください。
体重によってお薬の用量を調整します。

必ず測定してきてください！

病院

採血

採血結果が出るまでに1時間程度かかります。診察の1時間前までには採血をお済ませください。

診察

採血の結果が出てから診察になります。

通院治療センター受付

❶黄色ファイルを提出
❷当日の診察がなく、通院治療センターに8時50分までに来られた患者さんは受付前にある番号札をお取りください。
❸体温・血圧測定をしてください。
❹自宅で測定した体重をお申し出ください。
❺他科の診察、CTなどがある場合はご相談ください。
❻内服薬の持参がある場合は受付事務員にお渡しください。
❼車1台に限り駐車券の無料処理（24時間）をいたします。
❽食事などで通院治療センターを離れる際と戻ってきた際には必ず受付事務員にお申し出ください。

Check!　37.5度以上の発熱・咳、痰、鼻水などの感冒症状・下痢や嘔吐などの症状または上記の症状のある方と同居している方は受付事務員にお知らせください。

入室から治療開始

❶薬剤の内容により、ご案内が前後する場合がございます。
❷薬剤の確認や準備に40～50分程度の時間を要します。混雑時には60分～180分程度お待ちいただく場合がございます。
❸入室の準備ができましたらご案内いたします。治療中はご本人確認や薬剤確認のために再診受付機で発行された受付票を首にかけてください。
❹初めての治療や薬剤が変更になった際は、薬剤師より薬剤の説明と管理栄養士より栄養相談を行います。

治療終了、会計、帰宅

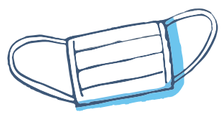
治療中のご案内とお願い　02

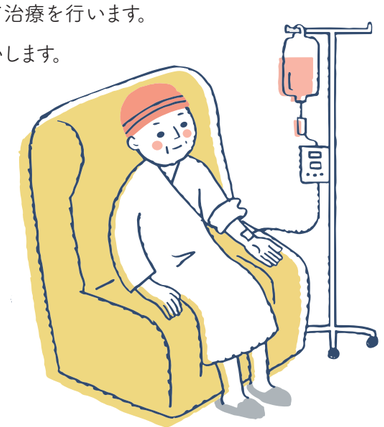
01 通院治療センター設備について

❶頻回・長時間の携帯電話での通話は、他の患者さんのご迷惑になるためご遠慮ください。メールは使用可能です。
❷テレビやラジオなどは必ずイヤホンをお使いください。
イヤホンは受付で貸し出しを行っております。
テレビカードの販売機は、受付横に設置しております。（1,000円=1,000度数）
テレビ視聴後のカードの抜き忘れにご注意ください。
❸病気や治療に関する本は、中待合室の本棚より貸し出しを行っております。ご希望の方は、受付事務員までお申し出ください。
❹副作用や治療に関するパンフレットを、通院治療センター入口周辺に準備しております。ご自由にお取りください。
❺治療はベッドまたはリクライニングチェアで行います。
❻トイレは男女兼用で2か所設置しております。治療中は通院治療センター内のトイレをご利用ください。
❼転倒の可能性があるため、点滴台やテーブルを支えに立ったり座ったりしないでください。
❽ベッドサイドのタオルケットや枕はご自由にお使いください。
❾Free Wi-Fiがご利用いただけます。

02 通院治療センターでの過ごし方について

❶飲食について
通院治療センター内では、食事はご遠慮いただいております。飲水のみ可能です。
❷感染対策のため、入室後はカーテンを閉めて治療を行います。
❸マスクは常に装着していただきますようお願いします。
❹トイレに行く前は必ずナースコールを押して看護師にお知らせください。
❺付添いについて
患者さんの病状、精神的安定・安心、転倒・転落予防などの理由で付添いをお願いすることがあります。



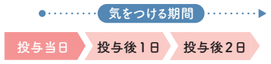


抗がん薬治療中における生活上の注意事項　03

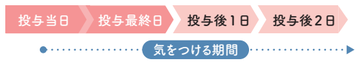
抗がん薬治療中の患者さんの排泄物（尿・便）、吐物、体液からは、ごくわずかな量ですが抗がん薬が排泄され、一緒に生活をされているご家族の方の健康に影響を及ぼす可能性があると考えられています。自宅で生活する際にはできる範囲での対策をお取り下さい。

❶対策をとる期間

1）抗がん薬の点滴開始後から２日間



2）経口抗がん薬の内服開始～終了後２日間



❷日常生活で注意して頂きたいこと

排泄物について

1）周囲への飛び散りを最小限にするため洋式トイレを使い、男性の方も座って排泄するようにし ましょう。

2）排泄後は、便座の蓋を閉め、水を２回、流しましょう。

3）トイレ周囲に排泄物が飛び散った場合は、トイレットペーパーで丁寧に拭き取り、次に水を含ませたペーパータオルで外側から内側に向かって拭き取りましょう。

4）排泄後は、石けんと流水で手を洗いましょう。

ストーマ装具やオムツを使用中の場合

1）ストーマ装具の交換日程は、治療期間終了後に交換できるよう調整しましょう。

2）排泄物の処理は、使い捨て手袋を着用しましょう。

3）ストーマ装具は再利用せず、一回限りの使用としてください。

4）使用後のストーマ装具やオムツなどは二重にしたビニール袋に入れて、口をしっかり閉じて一般ごみに廃棄しましょう。

5）最後に石けんと流水で手を洗いましょう。

ご家族が介助する際の注意事項

1）ご家族が排泄物、吐物、汚染されたリネン類、ストーマ装具の処理や、抗がん薬の内服薬・点滴を扱う場合は、直接手に触れないように下記の物品を準備しておくと良いでしょう。

Check!

- 使い捨ての手袋
- マスク
- ペーパータオル（アルコールを含まない）
- ビニール袋
- ビニールエプロン（準備が可能であれば）

2）排泄物、吐物等で周囲が汚れた場合は、手袋、マスク、ビニールエプロンを着用し、汚れた部分をペーパータオルで、外から内側に向けて拭き取り、次に、水を含ませたペーパータオルで拭き取りましょう。使用した物品は、二重にしたビニール袋へ入れ、口をしっかり閉じ、一般ごみとして廃棄してください。最後に石けんと流水で手を洗いましょう。

❸洗濯について

1）汚れがない衣類やリネンは、ご家族の洗濯物と一緒に洗濯してもかまいません。

2）排泄物、吐物、血液、解熱時の大量な汗などで汚染された衣類やリネンは、２回洗濯を行いましょう。

- １回目は、他の洗濯物と別にして普段の洗剤で洗濯を行います。２回目はご家族のものと一緒に洗濯してもかまいません。
- 汚染された衣類やリネンが次亜塩素酸ナトリウム入りの洗剤や漂白剤の使用が可能であれば使用してもよいでしょう。
- すぐに洗濯ができない場合はビニール袋に入れ口をしっかり閉じておきましょう。

❹経口抗がん薬の管理について

1）患者さん以外が誤って手に触れたり、飲んだりできない場所に保管しましょう。

2）経口抗がん薬を服用する時は、できるだけご自身で服用しましょう。介助される方は、薬に素手で触れないように、直接、包装シートから口に入れるか、紙コップに移してから服用するようにしましょう。手に出して服用された場合は、服用後すぐに石けんと流水で手を洗いましょう。

3）経口抗がん薬をご自身で勝手に粉砕したり、割ったり、カプセルの中身を取り出して飲むことはしないでください。

4）介助される場合は、使い捨ての手袋、マスクを着用しましょう。手袋を外す際は、手袋の外側に触れないようにしましょう。

5）介助後は、石けんと流水で手を洗いましょう。

6）服用後の包装シートや使用した使い捨ての手袋、マスクはビニール袋に入れて口をしっかり閉じ一般ごみとして廃棄してください。

❺性生活について

1）抗がん薬の影響を考え、治療が終わるまでは避妊しましょう。

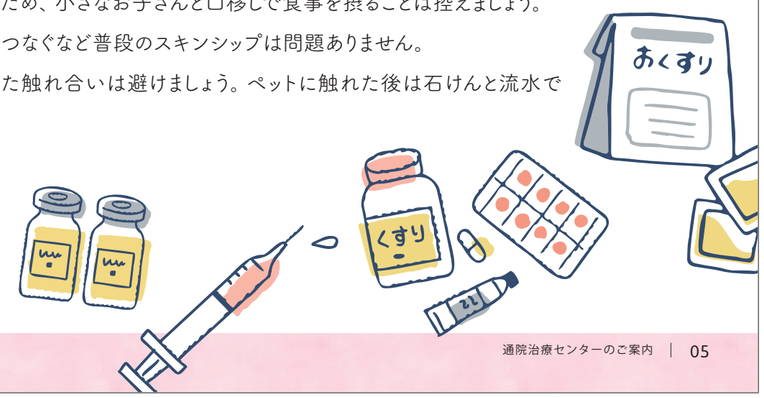
2）抗がん薬治療を受けた48時間以内は、体液に抗がん薬は含まれている可能性があるので、パートナーへの曝露を避けることや感染予防のため、コンドームを使用することや性交の前後にシャワーを浴びるなど清潔に注意しましょう。

❻その他

1）曝露や感染予防のため、小さなお子さんと口移しで食事を摂ることは控えましょう。

2）抱きかかえる、手をつなぐなど普段のスキンシップは問題ありません。

3）ペットとの口を介した触れ合いは避けましょう。ペットに触れた後は石けんと流水で手を洗いましょう。



点滴漏れと皮膚裂傷の予防と対応について　04

01 点滴漏れについて

❶抗がん薬の種類によっては、血管外に薬が漏れ出すと、皮膚の潰瘍や壊死などの回避できない事態が起こる場合があります。

❷予防と早期発見のために、点滴が入っている部位の痛みや違和感、腫れなどの症状がありましたら、すぐにお知らせください。

❸点滴中にトイレに行かれる場合は、ナースコールを押してください。

❹薬が血管外に漏れない工夫
1）点滴前にトイレをすませておきましょう。
2）点滴中は、点滴が入っている手は安静に保つようお願いします。
3）移動する際は、点滴が入っていない方の手で点滴台を持ってください。（下記の写真参照）
4）観察のために、点滴が入っている手が見えるようにお願いします。

❺血管外漏出と似た症状として静脈炎というものがあります。点滴部位の血管に沿った赤みや痛みが出た時はすぐに看護師へお申し出ください。

良い例

悪い例

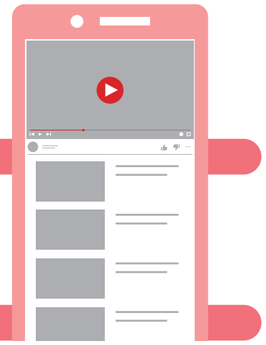
02 医療用テープ除去時の皮膚裂傷について

❶点滴中は点滴漏れを防ぐために医療用テープで針をしっかりと固定し点滴終了後に剥がしています。抗がん薬治療中の患者さんは皮膚が弱くなることがあり、医療用テープを剥がす際に皮膚に傷が生じることがあります。（右記の写真参照）
細心の注意をはらって実施させて頂きますが、皮膚の状態によっては完全に防ぐことはできません。医療用テープを剥がした部位に痛みや違和感を覚えられた場合は、速やかに看護師へ申し出てください。

❷皮膚裂傷を予防するためには、ご自宅でのケアが必要です。
ローションタイプの保湿剤を最低1日2回、押さえるように塗布して乾燥を防いでください。

抗がん薬が血管外に漏れた際や皮膚裂傷が起こった際、皮膚科受診をしていただく場合がございます。費用は患者さん負担となりますのでご了承ください。

通院治療センターの ご案内動画の視聴方法



視聴方法
1 QRコードを読み取る

QR コードを読み取ることで視聴することができますのでご活用ください。

サンプル

CHECK! ›

視聴方法
2 キーワードで検索する

QRコードを読み取ることができない方は YouTube で検索できます。
YouTube で「近畿大学病院通院治療センターのご案内」と検索してください。

近畿大学病院　通院治療センターのご案内

静脈ポートを用いた治療を受けられる患者さまへ

治療中の注意点、トラブル時の対処方法、針を抜く方法について、写真や動画を使って説明いたします。QRコードを読み取ることで視聴することができます。

治療中の注意点、トラブル時の対処方法について説明いたします。

針を抜く方法について説明いたします。

こんな ラジオ やってます！
近大メディカルラジオ